

専修大学 Si データサイエンス
教育プログラム(基礎リテラシーレベル)

自己点検・評価報告書

2024(令和6)年度

専修大学 数理・データサイエンス・AI 教育

自己点検・評価実施委員会



1 自己点検・評価の実施体制

専修大学では、令和4年度以降入学者を対象として、ビッグデータやAIによって駆動される現代の情報化社会の変化について理解し、基礎的な情報処理・データ分析能力・情報倫理を身につけることを目的に、Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）（以下、「Si データサイエンス教育プログラム」という。）を新設した。同プログラムは令和6年度も継続して以下の実施体制の下、自己点検・評価活動を実施した。

役 割	委員会等
プログラムの運営責任者	専修大学数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会
プログラムの改善・進化	専修大学数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会
プログラムの自己点検・評価	専修大学 自己点検・評価委員会 数理・データサイエンス・AI 教育自己点検・評価実施委員会

2 自己点検・評価の方法と点検・評価項目

自己点検・評価に際しては、「Si データサイエンス教育プログラム」の質向上の観点から、評価の視点を【学内からの視点】と【学外からの視点】に大別し、さらに、それぞれに下位項目を設定した。

【学内からの視点】

- (1) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果について
- (2) Si データサイエンス教育プログラムに関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について
- (3) Si データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

【学外からの視点】

- (1) 産業界からの視点を含めた「Si データサイエンス教育プログラム」の教育内容・方法について

3 自己点検・評価結果

【学内からの視点】

- (1) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果について

- 1) 学生アンケートの調査概要（添付資料①参照）

専修大学の「Si データサイエンス教育プログラム」は、添付資料①P3 のとおり、各学部・学科によって異なる開講科目¹を設置していることに特色がある。

¹ この「開講科目」の定義は、各学部が Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）として開講する授業科目のことを指す。

この度、本学では本プログラムにおける教育の質向上を図ることを目的に、令和6年7月15日（月）から8月3日（土）までの間、大規模な学生アンケート調査を実施した。アンケート対象者は、本プログラムを受講する令和6年度「Si データサイエンス教育プログラム」（基礎リテラシーレベル）履修者とした。調査方法は、本学で導入しているLMS（in Campus）のアンケート機能で実施した。設問数は、全13問で構成されており、うち単一選択形式（ラジオボタン）11問、記述式2問で構成した。

回答結果については、添付資料①P4のとおり、対象者3,885名（令和5年度:3,068名）のうち、769名（令和5年度:776名）が回答した。なお、回答率は19.8%（令和5年度:25.3%）であった。

2) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果（添付資料①参照）

本学では、学生アンケートを通じて、Si データサイエンス教育プログラムの学修成果を測定した。評価尺度は、5段階評価（「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「やや当てはまらない」「当てはまらない」とした。設問項目としては、①【意欲】②【理解度】③【成長実感】④【推奨度】⑤【希望】を設定した。

《全学部集計の結果 ～単一選択式～》

単一選択式のアンケート結果について、学生の【意欲】を確認するために設定した、**設問1**「Si データサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。」については、肯定回答率（「当てはまる」「やや当てはまる」）の割合が74.1%となり、学生がプログラムに意欲的に参加することができた。

続いて、学生の【理解度】を確認するために設定した、**設問2**「データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。」、**設問3**「『数理・データサイエンス・AI』が、今後の社会における『読み・書き・そろばん』に相当することを理解できた。」、**設問4**「今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。」、**設問5**「AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わさって実現していることを理解できた。」、**設問7**「個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。」、**設問8**「データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。」については、**設問7**を除いて、肯定回答率が60%を超える結果となった。このことから、本学学生の数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルの理解度については、学修成果に照らしても所期の目的を十分達成したといえる。

その一方で、**設問7**について、令和4・5年度に引き続き肯定回答率が低い結果となったが、令和5年度の肯定回答率48.6%から54.2%（5.6ポイント増）となっており、令和5年度から改善している。引き続き、理解度向上のため課題解決の検討が必要だと思わ

れる。

続いて、学生の【成長実感】を確認するために設定した設問 6「データリテラシーを向上できた。」、設問 9「Si データサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。」については、令和 5 年度と同様、とりわけ肯定回答率が高い結果(設問 6 :81.7%、設問 9 :86.2%)となった。このことから、本学学生が本プログラムを通じて、自分自身の成長を実感することができた証左といえる。

続いて、学生の【推奨度】を確認するために設定した、設問 10「この Si データサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。」については、肯定回答率が 70.5%となり、学生の成長実感とも相まって、本プログラムを高く評価していることが確認できた。

最後に、学生の【希望】を確認するために設定した、設問 11「今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に着け、応用基礎レベルの認定を目指したい。」については、肯定回答率が 67.8%となり、学生がより実践的な教育を求めていることが確認できた。

《全学部集計の結果 ～記述式～》

記述式のアンケート結果について、設問 12 では、本プログラムにおける学生の評価を確認することを企図して、「Si データサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、301 名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、「学べる」「できる」「役立つ」といった学生の成長実感のキーワードが明確に抽出されたことが、本プログラムの大きな成果であるといえる。

さらに、共起ネットワークを分析した結果、学生の成長実感のキーワードが、AI やエクセルを含む多様なキーワードと結びついていることが看取できた。

以上の結果、本委員会では、大学全体として本プログラムにおける授業内容・学生指導・学修成果について、その有効性を確認することができた、との結論に至った。

最後に、設問 13 では、本プログラムにおける課題を抽出することを企図して、「Si データサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、127 名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、「わかりやすい」「専門用語」といったキーワードが抽出されたことから、わかりやすさを重要視していることが判明した。

さらに、共起ネットワークを分析した結果、「グループワーク」が「増やす」といった

キーワードと結びついていることや、動画・演習・レポートといった単語が他の単語と結びつきがあることから授業形式などに関する意見・要望が多いことが確認できた。

《対象科目別集計の結果》

対象科目別集計では、「情報入門 1、情報基礎 I」、「情報処理入門」、「ネットワーク情報総論 1」および「日本語情報処理 1」の 4 つのグループの対象科目ごとに、設問 1～11 の集計を行った。

まず、最も履修者数が多い「情報入門 1、情報基礎 I」においては、設問 7 を除き、全ての設問において、肯定回答率が 60%を上回る結果となった。

続いて、経営学部で履修する「情報処理入門」においては、設問 3 および設問 7 を除き、全ての設問において肯定回答率が 60%を上回る結果となった。

続いて、ネットワーク情報学部で履修する「ネットワーク情報総論 1」においては、設問 1 および設問 5、設問 6、設問 8、設問 9 で肯定回答率が 80%を超えており、全体的に肯定回答率が高い結果となった。

最後に、国際コミュニケーション学部日本語学科で履修する「日本語情報処理 1」においては、全ての設問において、肯定回答率が 75%を上回り、全学部の肯定回答率と比べても満足度が非常に高いという結果となった。

(2) Si データサイエンス教育プログラムに関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について

令和 6 年度も令和 5 年度に引き続き、「基礎リテラシーレベル」の修了要件科目の履修者を対象にアンケートを実施し、学生の要望や意見を収集の上、分析を行った。分析結果を「専修大学数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会」へ共有し、課題について検討を行っていく。並行して、令和 8 年度に行われるカリキュラム改正に向けて、教育内容や履修率向上を目指す取り組みの推進を行う。

(3) Si データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

令和 6 年度の情報入門 1（選択科目）は、履修対象者数 2,805 名（令和 5 年度 2,829 名）に対して、最終的な履修者数は 1,974 名（履修率 70.4%）（令和 5 年度 1,978 名、69.9%）に留まった。履修希望者は 2,265 名（令和 5 年度 2,344 名）であったため、履修希望者の履修率は 87.2%（令和 5 年度 84.3%）となった。開講曜日・時限の見直し、履修希望者数の減少などに伴い、令和 5 年度より履修率が増加した。したがって、令和 7 年度も引き続き、令和 6 年度のデータ結果（学生の履修状況）に基づき、展開増や開講曜日・時限の見直しを行い、履修率の改善に努めていく。

また令和 5 年度から継続して、当該プログラムの履修率向上を目的に、当該年度入学者に対しては、プログラム専用のホームページや、学修ガイドブックでのプログラム紹介、

4月のオリエンテーションガイダンスでのリーフレットの配布を通して、プログラムの紹介を行っている。

【学外からの視点】

(1) 産業界からの視点を含めた「基礎リテラシーレベル」の教育内容・方法についてアンケート調査の結果、設問7「個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた」について、他の設問と比較して肯定回答率が低いことが確認されました。報告書においても、過去2年間にわたり同様の傾向が見られます。この低い肯定回答率に対して、原因の分析および対策、その実効性について記載する必要があると考えます。

また、昨今のIT技術の発展を鑑みると、基礎リテラシーレベルの学修内容は学生にとって必要不可欠な領域であり、全学部で必修化すべきと考えます。プログラムの詳細な学修内容については、基礎的な内容を重点的に学ぶべきです。特に、情報セキュリティ対策はあらゆる企業で重視されており、必要な知識を持つ人材が求められています。その知識に限らず、在学中に獲得した知識量の差は、社会人としてのスタートダッシュの成否を大きく左右すると感じます。

「専修大学には数理・データサイエンス・AIを学ぶプログラムがあり、学生は全員学んでいる」という社会の認識が広まれば、専修大学のブランド力向上が期待できます。また、オープンバッジの活用が始まったことは有意義な取り組みであると感じており、学生の認知度向上が望めます。ただし、オープンバッジという概念は企業ではまだ広まっていないように感じます。オープンバッジを取得することよりも、取得に至った経緯やそのために必要だった努力を学生自身が企業にアピールすることが、企業の認知を広める機会になると考えます。

太田油脂株式会社 専務取締役営業部長 後藤 康夫 氏

ビジネスの現場で求められる力は、必ずしも大学で学ぶとは限りません。学生が、その差にできるだけ早く気づき、在学中に少しでも体得に努めると同時に、「働く」とは何か、「給料をいただく」とは何か、を考える機会も設けてほしいと思います。

学生への告知チラシからは、数理・データサイエンス・AIに関するスキルは社会で必須であることを学生に伝え、履修に対する動機づけを図ろうという姿勢が感じられ、好感を抱きます。強いて言えば、このプログラムでの学びの成果を就職活動でも積極アピールするよう指南してはどうでしょうか。企業は、これらのスキルを身に付けた人材の採用意欲はますます高まっています。昨今は情報リテラシーを身に付けている学生も多く見受けられますが、付け加えるとすれば、実社会で必須となる情報の権利やリスク管理に関する知識も身に付けてほしいと思います。その動機づけとしては、学生の関心も高い生成AIが最適でしょう。

キャノン I T ソリューションズ株式会社 執行役員 R & D 本部長 今井 太一 氏

4 添付資料

- ① 令和 6 年度学生アンケート分析結果報告書【Si データサイエンス教育プログラム
(基礎リテラシーレベル)】

以 上

令和6年度学生アンケート 分析結果報告書

【Siデータサイエンス教育プログラム(基礎リテラシーレベル)】

専修大学 数理・データサイエンス・AI教育
自己点検・評価実施委員会

Ⅰ．調査概要と回答結果

調査概要①

○実施目的：「Siデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）」における教育の質向上を図るため

○アンケート対象者：「Siデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）」対象科目の履修者

○実施期間：令和6年7月15日（月）～8月3日（土）

○調査方法：本学で導入しているLMS（in Campus）によるアンケート調査

○設問数：全13問（うち、単一選択形式（ラジオボタン）11問、記述式2問）

調査概要②

OSiデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）の対象科目

経済学部・・・情報入門Ⅰ

法 学 部・・・情報入門Ⅰ

経営学部・・・情報処理入門

商 学 部・・・情報基礎Ⅰ

文 学 部・・・情報入門Ⅰ

ネットワーク情報学部・・・ネットワーク情報総論Ⅰ

人間科学部・・・情報入門Ⅰ

国際コミュニケーション学部日本語学科・・・日本語情報処理Ⅰ

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科・・・情報入門Ⅰ

回答結果

学 部	対象者数	回答数	回答率
経済学部	681	65	9.5%
法 学 部	528	92	17.4%
経営学部	807	155	19.2%
商 学 部	734	117	15.9%
文学部	442	49	11.1%
ネットワーク情報学部	273	196	71.8%
人間科学部	237	23	9.7%
国際コミュニケーション学部 日本語学科	87	48	55.2%
国際コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科	96	24	25.0%
合 計	3,885	769	19.8%

2. 全学部集計

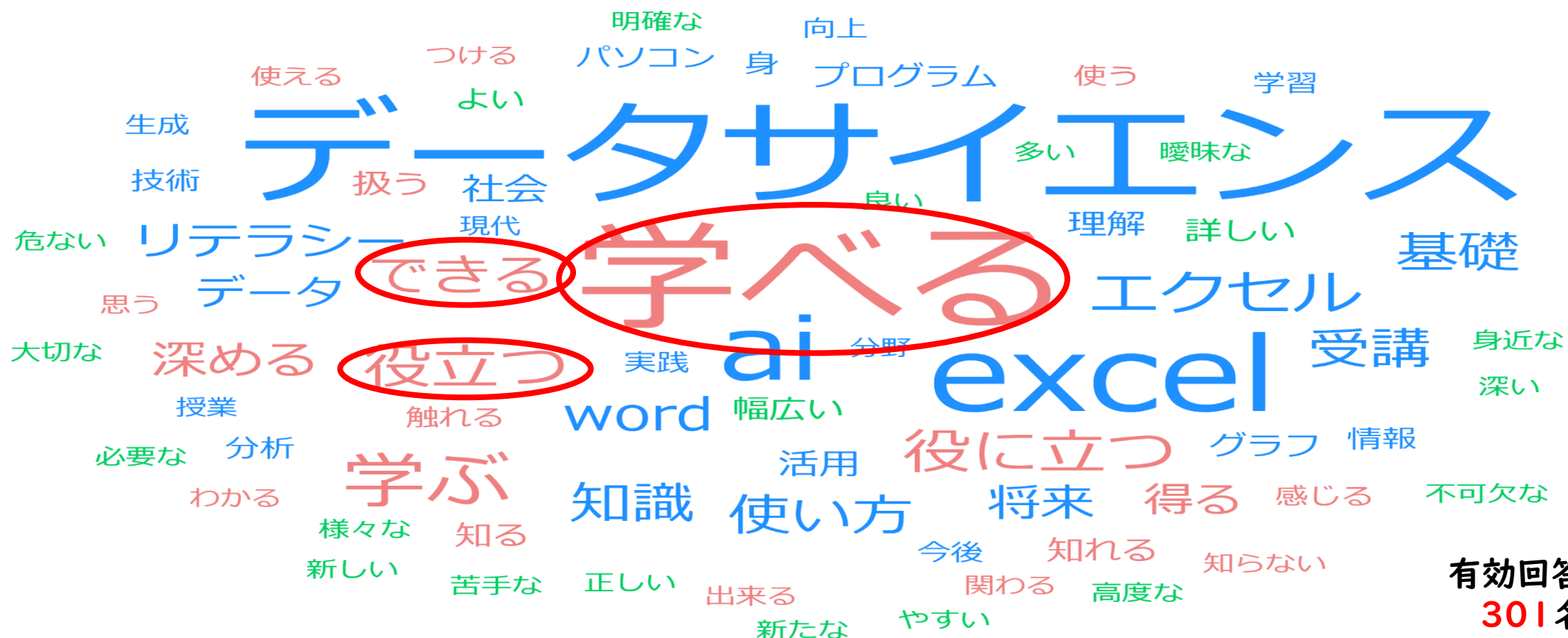
全学部集計 設問Ⅰ～Ⅺ【単一選択形式】

設問	設問内容										
Ⅰ	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。										
Ⅱ	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。										
Ⅲ	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。										
Ⅳ	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。										
Ⅴ	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できた。										
Ⅵ	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。										
Ⅶ	【理 解 度】 個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。										
Ⅷ	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。										
Ⅸ	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。										
Ⅹ	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。										
Ⅺ	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。										
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	26.3%	27.2%	19.1%	28.0%	30.0%	35.8%	16.6%	28.7%	48.5%	27.2%	26.7%
やや当てはまる	47.9%	47.2%	44.6%	48.2%	48.1%	45.9%	37.6%	46.4%	37.7%	43.3%	41.1%
肯定回答率	74.1%	74.4%	63.7%	76.2%	78.2%	81.7%	54.2%	75.2%	86.2%	70.5%	67.8%
どちらともいえない	19.6%	18.7%	26.4%	17.3%	15.6%	13.9%	29.5%	19.0%	11.2%	22.2%	23.5%
やや当てはまらない	3.9%	4.9%	6.8%	4.2%	3.7%	2.7%	11.1%	3.4%	1.6%	4.2%	5.2%
当てはまらない	2.3%	2.0%	3.1%	2.3%	2.6%	1.7%	5.2%	2.5%	1.0%	3.1%	3.5%

全ての設問において、肯定回答率50%を超えている。昨年同様、設問7は肯定回答率が低く、設問9は肯定回答率が高いという結果になった。

設問12 【記述式】

Siデータサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。



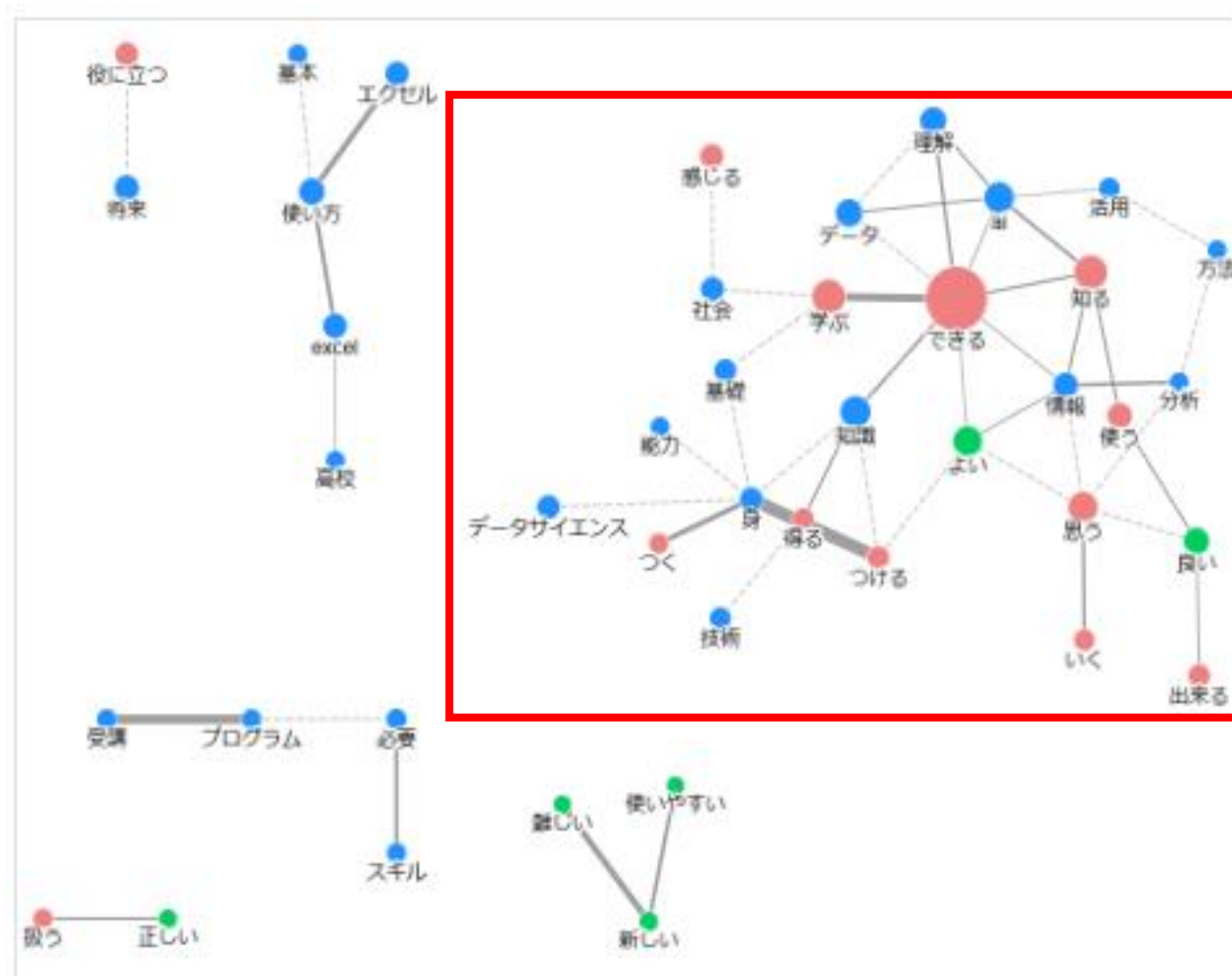
「学べる」「役立つ」「できる」といったキーワードが抽出されたのが、SIデータサイエンス教育プログラムの大きな成果である。

設問12【記述式】

SIデータサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。

名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度
知識	83.85	57	できる	28.79	155
ai	260.81	55	学ぶ	92.73	56
データ	39.50	42	知る	7.63	56
理解	20.53	39	学べる	167.93	43
使い方	51.31	38	思う	1.05	43
将来	40.07	33	使う	1.56	26
情報	11.56	33	感じる	2.57	22
excel	177.29	29	役に立つ	32.15	21
社会	26.42	28	出来る	0.76	17
エクセル	82.47	27	役立つ	29.23	16
データサイエンス	170.22	25	つける	1.03	16
身	13.17	24	わかる	0.38	14
基礎	42.08	22	いく	0.33	13
パソコン	10.35	21	知れる	5.23	12
今後	6.25	18	得る	3.11	12

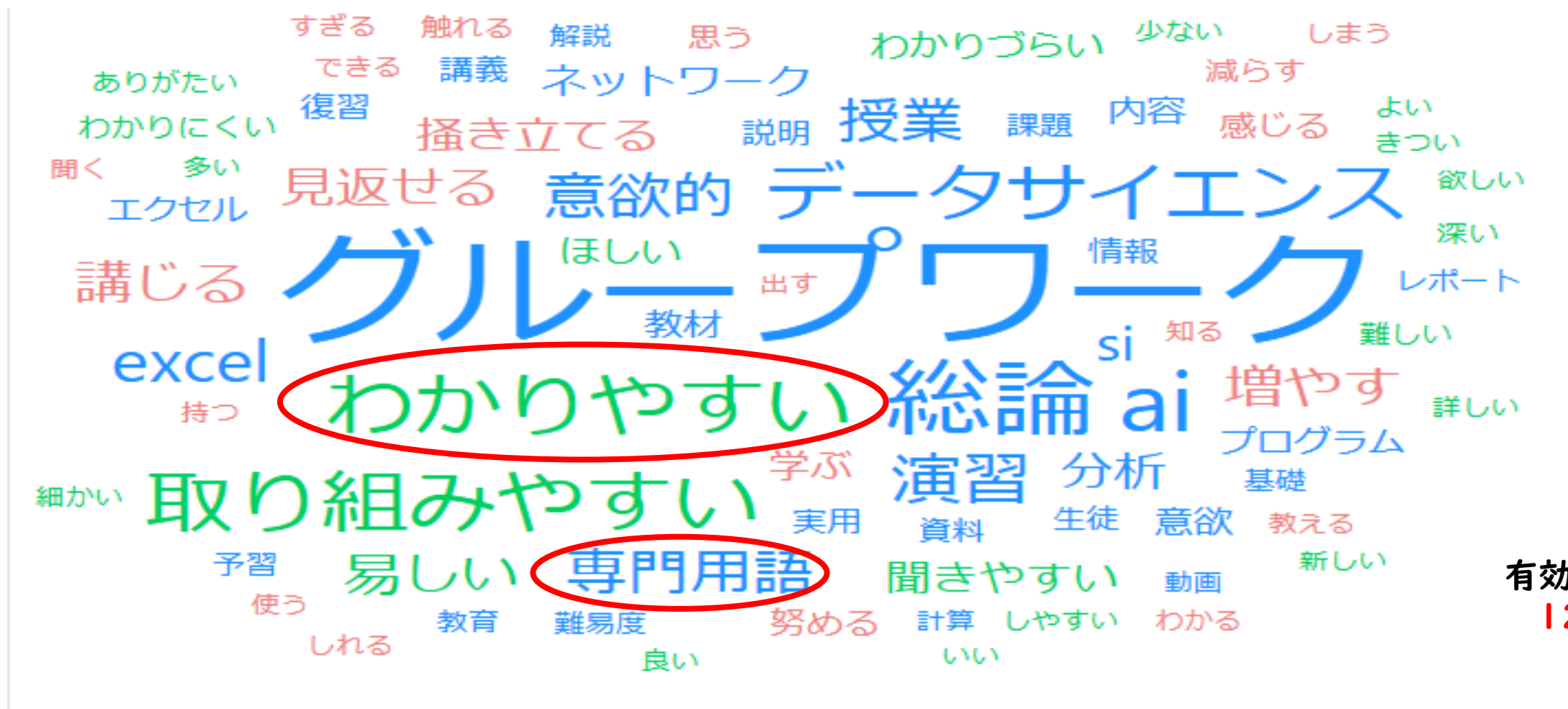
形容詞	スコア	出現頻度	感動詞	スコア	出現頻度
よい	3.46	41	---	---	---
良い	1.21	30	---	---	---
詳しい	4.03	14	---	---	---
深い	0.54	5	---	---	---
新しい	0.21	5	---	---	---
幅広い	3.35	4	---	---	---
分かりやすい	1.70	4	---	---	---
正しい	0.72	4	---	---	---
多い	0.05	4	---	---	---
いい	0.01	4	---	---	---
使いやすい	0.41	2	---	---	---
わかりやすい	0.28	2	---	---	---
危ない	0.17	2	---	---	---
難しい	0.03	2	---	---	---
早い	0.01	2	---	---	---



共起ネットワークにおいて、「できる」「知る」「学べる」といった学生の成長実感が、AIやデータを含む多様なキーワードと結びついていることが看取できる。

設問13【記述式】

SIデータサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。



有効回答数
127名

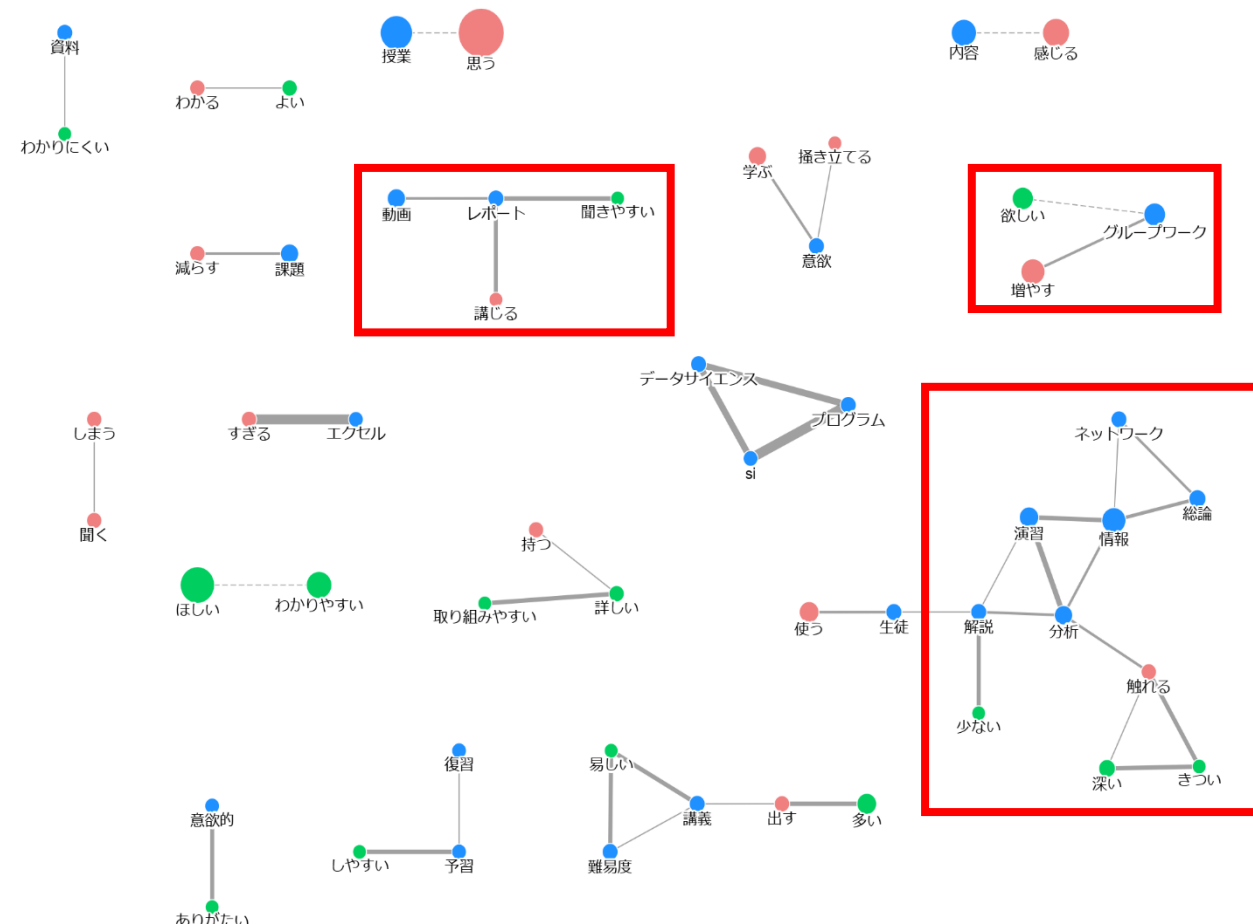
一方で、「わかりやすい」「専門用語」などのキーワードが抽出され、わかりやすさを学生が求めていることが判明した。

設問13【記述式】

SIデータサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。

名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度
授業	6.21	17	思う	0.30	23
内容	1.83	11	感じる	0.54	10
情報	1.15	10	増やす	1.84	8
グループワーク	33.97	8	できる	0.06	7
ai	17.98	8	使う	0.06	5
説明	1.26	7	学ぶ	0.82	4
演習	8.92	6	教える	0.10	4
分析	4.20	5	知る	0.02	3
課題	0.74	5	減らす	0.25	2
動画	0.17	5	触れる	0.14	2
総論	19.35	4	しれる	0.02	2
データサイエンス	11.52	3	出す	0.02	2
excel	9.03	3	持つ	0.01	2
専門用語	6.29	3	聞く	0.01	2
ネットワーク	2.80	3	わかる	0.01	2

形容詞	スコア	出現頻度	感動詞	スコア	出現頻度
ほしい	0.70	15			
わかりやすい	4.94	9			
良い	0.11	9			
欲しい	0.08	6			
難しい	0.20	5			
多い	0.07	5			
いい	0.01	4			
深い	0.20	3			
詳しい	0.09	2			
よい	0.01	2			
取り組みやすい	4.89	1			
窮しい	1.79	1			
聞きやすい	1.14	1			
わかりづらい	0.63	1			
わかりにくい	0.34	1			



共起ネットワークにおいて、「グループワーク」が「増やす」といったキーワードと結びついていることや動画・演習・レポートといった単語の結びつきが多いことから授業形式に関する要望が多いということが分かった。

3. 対象科目別集計

「情報入門Ⅰ・情報基礎Ⅰ」、「情報処理入門」、「ネットワーク情報総論Ⅰ」および「日本語情報処理Ⅰ」の4つのグループの対象科目ごとに、設問Ⅰ～Ⅺの集計を行い、全学部集計との比較を行う。

【情報入門Ⅰ、情報基礎Ⅰ】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・A Iによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・A I」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のA Iで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 A Iを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 個人情報保護法やE U一般データ保護規則（G D P R）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。
8	【理 解 度】 データ・A Iを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	25.1%	28.1%	20.3%	29.5%	29.7%	36.2%	16.5%	28.4%	47.6%	26.5%	21.6%
やや当てはまる	48.1%	46.8%	42.2%	50.3%	46.8%	43.2%	36.8%	44.3%	39.7%	42.2%	40.0%
肯定回答率	73.2%	74.9%	62.4%	79.7%	76.5%	79.5%	53.2%	72.7%	87.3%	68.6%	61.6%
どちらともいえない	20.8%	20.0%	28.9%	16.2%	17.0%	15.4%	30.5%	22.4%	10.3%	23.8%	27.3%
やや当てはまらない	3.5%	3.5%	6.2%	2.7%	4.3%	3.2%	11.9%	3.0%	1.6%	4.1%	6.2%
当てはまらない	2.4%	1.6%	2.4%	1.4%	2.2%	1.9%	4.3%	1.9%	0.8%	3.5%	4.9%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	74.1%	74.4%	63.7%	76.2%	78.2%	81.7%	54.2%	75.2%	86.2%	70.5%	67.8%

設問7を除き、肯定回答率が全て60%を超えている。特に設問4・設問6・設問9の肯定回答率が高い。

【情報処理入門】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・A Iによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・A I」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のA Iで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 A Iを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 個人情報保護法やE U一般データ保護規則（G D P R）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。
8	【理 解 度】 データ・A Iを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	20.6%	20.0%	14.8%	18.1%	22.6%	25.8%	16.1%	23.2%	41.9%	25.8%	25.8%
やや当てはまる	44.5%	47.1%	40.6%	43.9%	45.2%	48.4%	34.2%	41.3%	34.8%	38.1%	45.8%
肯定回答率	65.2%	67.1%	55.5%	61.9%	67.7%	74.2%	50.3%	64.5%	76.8%	63.9%	71.6%
どちらともいえない	23.9%	20.0%	30.3%	23.2%	21.9%	20.0%	30.3%	23.9%	17.4%	25.2%	21.3%
やや当てはまらない	6.5%	7.7%	9.7%	7.7%	4.5%	1.9%	10.3%	5.2%	2.6%	5.8%	3.2%
当てはまらない	4.5%	5.2%	4.5%	7.1%	5.8%	3.9%	9.0%	6.5%	3.2%	5.2%	3.9%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	74.1%	74.4%	63.7%	76.2%	78.2%	81.7%	54.2%	75.2%	86.2%	70.5%	67.8%

設問3および設問7を除き、全ての設問で肯定回答率が60%を超えている。

【ネットワーク情報総論Ⅰ】集計

設問	設問内容										
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。										
2	【理 解 度】 データ・A Iによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。										
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・A I」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。										
4	【理 解 度】 今のA Iで出来ることと、出来ないことを理解できた。										
5	【理 解 度】 A Iを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できた。										
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。										
7	【理 解 度】 個人情報保護法やE U一般データ保護規則（G D P R）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。										
8	【理 解 度】 データ・A Iを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。										
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。										
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。										
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に着け、応用基礎レベルの認定を目指したい。										
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	29.1%	25.5%	18.4%	25.5%	32.7%	39.8%	13.8%	29.1%	51.5%	26.5%	33.2%
やや当てはまる	52.5%	49.0%	50.5%	50.5%	53.1%	48.0%	40.3%	55.1%	37.8%	50.0%	40.8%
肯定回答率	81.6%	74.5%	68.9%	76.0%	85.7%	87.8%	54.1%	84.2%	89.3%	76.5%	74.0%
どちらともいえない	13.8%	18.4%	22.4%	17.9%	10.7%	9.2%	31.1%	11.7%	9.7%	17.9%	19.9%
やや当てはまらない	3.6%	6.6%	5.1%	5.1%	2.0%	3.0%	10.2%	3.1%	1.0%	4.1%	5.1%
当てはまらない	1.0%	0.5%	3.6%	1.0%	1.5%	0.0%	4.6%	1.0%	0.0%	1.5%	1.0%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	74.1%	74.4%	63.7%	76.2%	78.2%	81.7%	54.2%	75.2%	86.2%	70.5%	67.8%

設問1・設問5・設問6・設問8・設問9で肯定回答率が80%を超えている。

【日本語情報処理Ⅰ】集計

設問	設問内容										
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。										
2	【理 解 度】 データ・A Iによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。										
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・A I」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。										
4	【理 解 度】 今のA Iで出来ることと、出来ないことを理解できた。										
5	【理 解 度】 A Iを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できた。										
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。										
7	【理 解 度】 個人情報保護法やE U一般データ保護規則（G D P R）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。										
8	【理 解 度】 データ・A Iを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。										
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。										
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。										
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。										
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	41.7%	50.0%	27.1%	58.3%	45.8%	47.9%	31.3%	47.9%	64.6%	39.6%	41.7%
やや当てはまる	37.5%	43.8%	52.1%	37.5%	47.9%	50.0%	43.8%	43.8%	31.3%	41.7%	35.4%
肯定回答率	79.2%	93.8%	79.2%	95.8%	93.8%	97.9%	75.0%	91.7%	95.8%	81.3%	77.1%
どちらともいえない	20.8%	6.3%	10.4%	4.2%	4.2%	2.1%	12.5%	6.3%	4.2%	18.8%	16.7%
やや当てはまらない	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	2.1%	0.0%	10.4%	2.1%	0.0%	0.0%	4.2%
当てはまらない	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	74.1%	74.4%	63.7%	76.2%	78.2%	81.7%	54.2%	75.2%	86.2%	70.5%	67.8%

全ての設問において、肯定回答率が75%を超えている。



 **SENSHU UNIVERSITY**

 社会知性の開発をめざす
専修大学



社会知性の開発をめざす
専修大学